

# 1 市場動向の概要と対策

## (1) 野菜

全体の動向と見通し

11月と12月の実績

(東京都中央卸売市場)

区分 品目	11月の取扱実績(計)				12月の旬別取扱実績							
	11月		11月		上旬				中旬			
	入荷量 (t)	前年比 (%)	単価 (円/kg)	前年比 (%)	入荷量 (t)	前年比 (%)	単価 (円/kg)	前年比 (%)	入荷量 (t)	前年比 (%)	単価 (円/kg)	前年比 (%)
総数	140,819	98	174	88	48,312	102	164	81	54,517	99	164	73
だいこん	14,062	95	53	72	4,998	109	45	60	5,515	111	40	50
にんじん	8,737	105	86	69	2,761	92	72	82	3,488	98	72	70
はくさい	15,046	98	30	76	5,319	99	27	70	6,664	102	25	66
キャベツ類	14,173	94	52	73	4,368	100	60	59	4,629	99	64	50
ほうれん草	2,547	112	309	77	838	133	284	56	833	118	288	57
ねぎ	6,166	88	237	149	2,002	87	190	130	2,323	93	181	126
レタス類	7,173	100	124	73	2,526	121	138	52	2,787	127	158	39
きゅうり	6,490	123	210	49	2,006	113	166	48	1,888	93	285	73
なす	3,029	100	364	98	933	119	387	93	825	96	383	86
トマト	5,812	104	324	85	2,079	133	283	72	2,092	111	252	65
にら	944	113	575	91	377	127	484	86	376	103	451	85
たまねぎ	833	105	414	71	261	110	503	66	270	102	501	55
ばれいしょ	25	100	1,138	105	5	49	1,136	164	5	83	1,114	98
生しいたけ	1,313	82	694	114	455	78	605	127	505	75	593	111

### 概況

年間で最大の需要期を迎え、秋以降の低迷ムードの流れが変わるころと期待されたが、深刻な不況を反映して、入荷量は前年並、平均販売価格は前年の225円/kgに比し180円/kg程度となり、売上げは前年比約2割のダウンとなった。

企業倒産や大手企業の大規模なリストラ、完全失業率の悪化、スーパー等の売上げが連続して前年割れ、個人消費減退等が毎日報じられるにつけ、買い控えと安売りムードが強くあらわれ、盛り上がりのない市場取引となってしまった。

12月は、関東産冬野菜を中心に、西南暖地の果菜類が盛期を迎え日々増量し、前年の入荷減に対し、本年は天候に恵まれ順調な作柄により、入荷量は前年並となった。

類別に動向を整理すると、だいこんとにんじん等の根菜類は前年比105%の入荷量で、販売価格77円/kg程度で前年比約70%。以下同じく、はくさいときゃべつ等の葉

茎菜類は入荷量同 95%、販売価格 151円 / kg 同比 75%。きゅうりとトマト等の果菜類は入荷量同 120%、販売価格同 270円 / kg 同比 60%。たまねぎ、ばれいしょ等の土物類は、入荷量同 91%、販売価格同 129円 / kg 同比 90%。おおばと食用ぎく等のツマ物類は入荷量同 110%、販売価格同 1,600円 / kg 同比 70%。なましいたけとなめこ等菌茸類は入荷量同 90%、販売価格同 718円 / kg 同比 95%。山菜のたらの芽は、入荷量同 120%、販売価格同 3,550円 / kg 同比 90%。前年に輸入急増から暴落を演じたねぎなど一部を除けば、軒並み厳しい状況となった。

現在は、「品質の良いものはあたりまえ」の時代だから、「商品そのもののあり方」(品質、数量、計画性、商品特性など)と「体制対応のあり方」(上手な生産や販売のしかた)など時代変化への適応問題がポイントになる。

品質にこだわるとすれば、

第一は、正真正銘の品質 (良いものに過剰なし)。

第二は、生産出荷団体の品質 (団結は力なり)。

第三は、ものの生産販売、技術力、対応力の品質 (技術は信頼を高める)。

等がキーワード。

## (1月の見通し)

(東京都中央卸売市場)

品目	区分	入荷量 (t)			キロ当たり単価 (円)			山形県産前年 1月実績	
		前年実績	前年比 (%)	5カ年平均	前年実績	前年比 (%)	5カ年平均	前年入荷量	前年占有率 (%)
だいこん		13,361	105	14,316	113	65	86	3	-
にんじん		7,408	103	7,992	114	70	95		
はくさい		14,431	101	13,390	70	60	56		
キャベツ類		13,169	105	13,587	141	60	98	2	-
ほうれん草		1,879	120	2,130	546	70	442		
ねぎ		5,361	100	5,047	204	100	256	6	-
レタス類		6,419	110	7,389	425	50	272		
きゅうり		5,179	105	5,540	519	70	446		
なす		2,743	110	3,077	464	90	437		
トマト		4,934	105	4,797	348	90	371		
ミニトマト		941	105	874	551	95	561		
にら		793	105	903	853	90	632		
たまねぎ		10,238	105	10,566	90	80	85		
ばれいしょ		7,524	105	7,838	115	75	120		
生しいたけ		1,530	100	1,295	613	105	783	8	1

## 概況

卸売市場の初荷は1月5日からである。この一年の夢を乗せるジャンボな”宝船”は出現するだろうか。前年が厳しかっただけに、今年こそ荒波を越えていく”宝船”を期待したい。

さて、1月の野菜は、はくさいとだいこん、きゃべつの3大品目が全体の1/3を占める。これらは、前年から引き続きの入荷となる秋冬野菜で、千葉、茨城、神奈川、愛知産が主力である。とくに、だいこんとはくさい等は市況安が前年年末まで続いて、農林水産省の緊急需給調整事業に係る産地投棄が検討された経緯があるだけに、安値ムードが続く可能性が高い。

前年の1月の主要野菜は、秋口から続いた入荷減に加えて1月以降記録的な寒波が追い打ちをかけ高値基調の推移となっただけに、本年の販売見通しは軒なみ厳しい予想となっている。

消費低迷や、デフレ傾向を要因に、お正月から厳しい見通しとなっているが、気象庁の3カ月予報どおり1月が前年同様寒い冬となれば、価格上伸の機会も出てこよう。

市況低迷の中で、チャンスの風をどのように呼び込むか、ジックリ考える時期としたい。